

【地域公共交通】まちづくりと一体となった公共交通の再編

【岐阜県岐阜市】

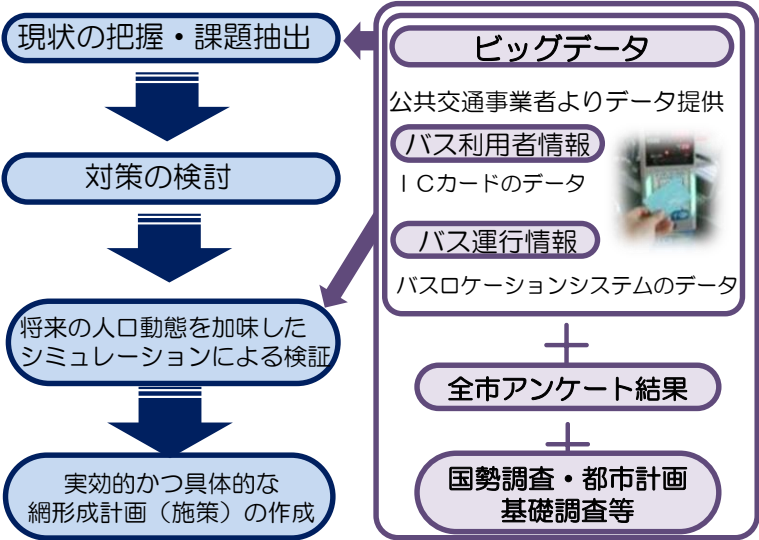
公共交通ネットワークの総合的な再編

背景・課題

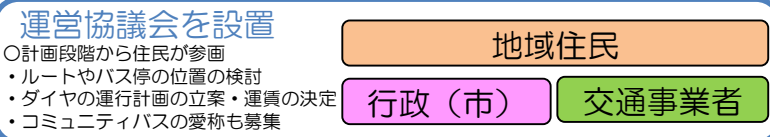
・少子高齢化、自動車への依存が進むにつれ、公共交通利用者は減少。将来的に地域の移動手段の確保が困難となる可能性。

- ・ビッグデータ等を活用し、バス路線を再編（地域公共交通再編実施計画認定）
- ・利用者の多い路線は、BRTの導入などにより安定した輸送力を確保。他方、日常生活需要等については、地域住民が主体となった協議会を通じ、住民ニーズを踏まえたコミュニティバスで対応。
- ・公共交通軸の沿線等に都市機能の誘導を図るとともに、周辺への居住を促進（まちなか居住促進区域を定め、転居者に対して助成）

○ビッグデータを活用した現状把握と分析によりバスネットワークを検討



○地域住民が主体となりコミュニティバスの運行計画等を検討



交通結節点の整備

JR岐阜駅をハブターミナルとして整備するとともに、地域の生活拠点となる、スーパー、病院等にトランジットセンターを整備検討中

JR岐阜駅北口駅前広場 トランジットセンター（病院）

走行環境整備

バス優先レーン・PTPSの導入拡大中
⇒定時性、速達性の向上
バス優先レーンのカラー化整備中
⇒公共交通軸の視認性を高める



車輦の高度化

連節バスの導入拡充検討中
⇒運行の効率化
公共交通軸の強化・明確化

利用環境整備

ハイグレードバス停を整備中
⇒バス停での待ち環境の向上
幹線バス路線上のバス停やトランジットセンター近傍でサイクル&ライト 駐輪場等の確保

地域の移動手段の確保

路線バスで対応しにくい地域の買い物や通院など日常生活の移動を支える交通手段として「市民協働の手づくりコミュニティバス」の導入推進中